

第6編

文化・交流・連携

文化を育み、交流と連携で風格漂う 魅力あるまちづくり

第1章 多彩な文化芸術の継承と創造

- 6-1-1 文化遺産の継承と活用
- 6-1-2 育成を基本理念とした文化芸術活動への支援と文化創造

第2章 交流・連携、移住・定住促進による活力ある都市づくり

- 6-2-1 上田の魅力発信、選ばれる都市づくり
- 6-2-2 交流・連携促進による地域の活性化

第3部 まちづくり計画

第二次上田市総合計画
後期まちづくり計画



6-1-1 文化遺産の継承と活用

地域の歴史・文化を知る機会を創出し、歴史的・文化的遺産の活用と継承に向けた取組を推進します。

現状と課題

- 文化財は将来の地域文化の向上発展の基礎となる貴重な財産であるため、これらを適切に保護して次世代へ引き継ぐ必要があります。
- 文化財の保存にあたっては、行政と所有者だけでなく、地域、企業、NPO法人などが参画し、協働のもと次世代に継承する体制が重要です。
- 様々な主体が文化財に関わる気運を高めるためには、文化財を積極的に公開し、地域の歴史文化を正しく知り、触れる機会を創出することが必要です。
- 文化財を適切に保存する一方で、まちづくりや観光の資源として有効に活用していく必要があります。
- 信州上田・塩田平が日本遺産*の認定を受けたことから、従来の文化財の価値に加え、その魅力を市内外に発信するとともに、これらを観光資源として積極的に活用していくことが求められます。

【指定文化財一覧】

(R.元.12.1現在)

種類	有形文化財								無形文化財	民俗文化財		記念物			計
	建造物	絵画	彫刻	工芸等	書跡	古文書	歴史資料	考古資料		有形	無形	史跡	名勝	天然記念物	
国宝	1														1
国指定	6		4	1		1	1			1		3		3	20
国重美		1			2										3
国登録	11														11
国選択											3				3
県指定	10	2	4	3				2				4		3	28
県選択											1				1
市指定	38	9	22	19	3	19	4	7	4	14	14	45	7	30	235
計	66	12	30	23	5	20	5	9	4	15	18	52	7	36	302

(国指定：国指定文化財 国重美：国認定重要美術品 国登録：国登録有形文化財 国選択：国選択無形民俗文化財 県指定：長野県指定文化財 県選択：長野県選択無形民俗文化財 市指定：上田市指定文化財)

出典：上田市作成（生涯学習・文化財課）

達成度をはかる指標・目標値

指標の内容	基準値	計画目標（令和7年度）
市の歴史や文化財に愛着や誇りを感じる市民の割合	61.2% (令和元年度)	66.0%
歴史や文化を大切にしたい上田らしさを感じる市民の割合	51.0% (令和元年度)	55.0%

各主体に期待される主な役割分担

市民	<ul style="list-style-type: none"> 文化財保護活動に参画します。 歴史的・文化的遺産の基礎資料を提供します。 伝統行事などに参加し、文化財を学習活動の場として活用します。
文化財所有者	<ul style="list-style-type: none"> 文化財を適切に管理します。
学校	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと学習を通し、地域の歴史・文化などに関する教育を行います。
自治会	<ul style="list-style-type: none"> 伝統行事や体験学習などに参加しやすい環境づくりを行います。
事業者	<ul style="list-style-type: none"> 文化財保護活動を支援します。
行政	<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史・文化を知る機会を創出します。 歴史的・文化的遺産の継承と活用の取組を推進します。

施策の方向性・展開

基本施策1 地域の歴史的・文化的な遺産を継承します

- ①地域の歴史と文化を知る機会の創出**
 - 市誌編さん時の資料の公開、「上田市歴史文化基本構想」及び「信州上田ふるさと先人館*」などを活用し、博物館、公民館、図書館などでの学ぶ機会の提供を通し、市民の学習・研究活動を促進します。
 - 学校教育において、地域の歴史・文化・自然、優れた業績を残した先人などを教材とする学習を充実します。
 - 市民が伝統行事などに参加しやすい環境づくりを進めます。
- ②市民協働による文化財の保存**
 - 文化財所有者が行う修理及び無形民俗文化財などの後継者育成事業をはじめ、市民や企業などが自主的に行う文化財保護活動を支援します。
- ③ICT*を活用した文化財の保存活用**
 - 地域の歴史的・文化的遺産などに関する基礎資料の収集などにおいて、ICTを活用した調査、記録保存などを行い、文化財指定などを通し、適切に保安全管理します。

基本施策2 地域の歴史的・文化的遺産の活用を進めます

- ①市民協働による歴史的・文化的遺産の活用**
 - 文化財を市民の学習活動や文化活動の場として積極的に活用できるよう整備します。
 - 地域の特色ある文化遺産を、まちづくりや観光資源として活用する取組を促進するとともに、所有者や地域のかたが主体的に取り組む文化財活用事業を支援します。
- ②基本構想を指針とする文化遺産の継承と活用に関する施策の展開**
 - 「第二次上田市文化芸術振興に関する基本構想」に基づき、総合的かつ計画的に文化遺産の継承と活用を推進します。
 - 「上田市歴史文化基本構想」に基づき、「上田市文化財保存活用地域計画」を策定し、文化財を総合的に保存・活用する取組を推進します。

基本施策3 日本遺産*を活用した観光振興とシビックプライド*の醸成を図ります

- ①身近な文化遺産の魅力発信と有償ガイドなどの人材育成**
 - 官民協働により設立した「上田市日本遺産推進協議会」を中心に、関係する各種団体との協働により、日本遺産の普及啓発や魅力発信を推進します。
 - 今後の事業の担い手となる有償ガイドなど、外国人留学生を含めた人材育成を進め、文化財の調査研究や講演会による情報発信により、シビックプライドの醸成を図ります。
 - 観光客向けにビジュアルセンター施設を整備するとともに、各構成文化財の説明板を設置し、誘客促進に努めます。
- ②観光資源としての魅力ある文化遺産の活用**
 - 国宝や重要文化財などをはじめ、鉄道施設や民話・伝説といった未指定の文化財なども積極的に活用した観光振興を図ります。
 - 文化財を活用し、インバウンド*向けに新たな周遊ルートの開発や観光商品などの開発に努め、観光客の増加や知名度の向上を図ります。

参考 関連する個別計画

第二次上田市文化芸術振興に関する基本構想、上田市歴史文化基本構想

6-1-2 育成を基本理念とした文化芸術活動への支援と文化創造

「育成」を基本理念として、市民による地域に根ざした文化芸術活動を支援し、サントミュージゼを核とする「文化の薫る創造都市」の実現を目指します。

現状と課題

- 文化・芸術はまちづくりの重要な要素であり、新しい時代に向けた文化振興施策を総合的に展開していく必要があります。
- 子どもへの教育効果や経済波及効果など、まちの活力の源泉となる効果を多面的に引き出す事業展開が求められています。
- サントミュージゼを拠点として、市民が様々な文化・芸術に触れ、自らが参加し、文化芸術活動の主体者となるよう支援していく必要があります。
- 文化・芸術を通し、「人」、「文化」、「まち」が育まれる魅力あるまちづくりを目指すために、特に次世代を担う子どもたちを対象とする育成事業に取り組むことが重要です。
- 安定した財源を確保し、より質の高い芸術鑑賞の場を創り出していくためには、民間の企業や団体との様々な連携が必要となっています。

達成度をはかる指標・目標値

指標の内容	基準値	計画目標(令和7年度)
文化・芸術に触れ、参加する機会に恵まれていると感じる市民の割合	43.5% (令和元年度)	45.0%

各主体に期待される主な役割分担

市民	<ul style="list-style-type: none"> コンサート観賞や体験型講座に参加します。 文化芸術活動に取り組み、成果を発表します。 自らが企画運営に携わり鑑賞事業などを開催します。 市民サポーターやアーツスタッフなどとして、各種事業に参画します。
幼稚園・保育園・学校など	<ul style="list-style-type: none"> 子どもアトリエプログラムや芸術家ふれあい事業などに参加します。
地域・商店街	<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術事業の受入れや企画をします。
事業者など	<ul style="list-style-type: none"> 企業メセナ*などにより文化芸術事業を支援します。
行政	<ul style="list-style-type: none"> 「育成」を基本理念に市民による文化芸術活動を支援します。 魅力ある「鑑賞事業」、「創造育成事業」、「市民協働・情報発信事業」を展開します。



芸術家ふれあい事業「クラスコンサート」



市民参加による「演劇事業」

施策の方向性・展開

基本施策1 「第二次上田市文化芸術振興に関する基本構想」に基づき文化施策を推進します

①基本構想を指針とする文化振興施策の展開

- 第二次上田市文化芸術振興に関する基本構想に基づき、総合的かつ計画的に文化振興を推進します。

基本施策2 文化芸術活動などを支える団体や人材を育成します

①青少年の文化芸術活動の充実

- 文化・芸術を体験できる環境を整えるとともに、子どもたちによる文化・芸術の振興と継承を目指す関係団体の活動を支援します。
- 学校と連携を図り、質の高い文化・芸術を鑑賞する機会を創出するとともに、体験・学習の機会を充実します。
- 特色ある文化芸術活動や地域行事への参加促進を図ります。

②市民による地域に根ざした文化活動や新たな創造への支援

- 広域連携による文化芸術活動を支援し、広域的な文化交流を推進します。
- 市民の文化活動の場として、既存の文化施設のほか、街かどや文化財などを活用し、地域の活性化につなげます。
- 文化芸術活動に取り組む団体の自主性を尊重し、地域に根ざした文化活動を支援します。

基本施策3 サントミュージゼを核とした文化の薫る創造都市の実現を目指します

①文化創造都市としての「創造育成」事業の推進

- 子どもと芸術家のふれあい事業、子どもアトリエの創作プログラム、お絵かきひろばの活用などにより、子どもたちの自由な発想、感性、創造力を育みます。
- 公民館などを会場に、地域ふれあいコンサートを開催し、身近に芸術を感じる機会を提供します。
- 市民が参加し自ら創造する体験型講座、創造公演を実施するとともに、絵画、木彫、版画、写真などの講座を開催し、愛好者の育成と拡大を図ります。
- 商店街などとの連携を図り、市民も参加できるイベントを実施し、市民交流を深め、まちなかの賑わいを創出します。

②市民とともに歩む施設を目指す「市民協働」事業の推進

- サントミュージゼ運営への市民サポーターの充実を図るとともに、実行委員会の一員として参加できる事業を展開します。
- ホール、舞台、美術館に関する基礎知識や専門知識を習得する講座を開催し、地域と芸術をつなぐ人材を育成します。
- 市民自らが音楽、美術、芸能など、多方面の文化芸術活動の成果を発表できる場を提供・支援します。

③魅力ある「鑑賞」事業の推進

- 企業との共催や企業メセナ*の受入れに積極的に取り組み、より質の高い鑑賞事業を提供します。
- アンケートなどを実施し、魅力ある鑑賞事業や美術展覧会を展開します。
- 郷土作家の顕彰と作品展示によって郷土愛を育みます。

参考 関連する個別計画

第二次上田市文化芸術振興に関する基本構想



6-2-1 上田の魅力発信、選ばれる都市づくり

上田市の持つ「人・食・文化・産業・情報」などの多様な魅力を向上させ、市内外にその魅力を発信していくことにより、定住人口や交流人口と併せ、上田市に多様な形で関わる「関係人口*」の創出・拡大を図り、「来たい・また来たい・住みたい・住み続けたい都市」の実現に向けた取組を推進します。

現状と課題

- 少子化、高齢化及び人口減少などの社会経済状況の変化への対応と、激化する地域間競争に優位に立つため、平成30年に策定した「上田市シティプロモーション推進指針」に基づき、まちの多様な魅力を市内外に戦略的、効果的に発信していく必要があります。
- 観光消費の拡大は、幅広い分野に経済効果をもたらすため、真田氏をはじめ上田の豊かな歴史に育まれた多彩な観光資源を活用した「稼げる観光地づくり」が必要となります。
- 移住・定住を促進するため、仕事、生活、教育及び

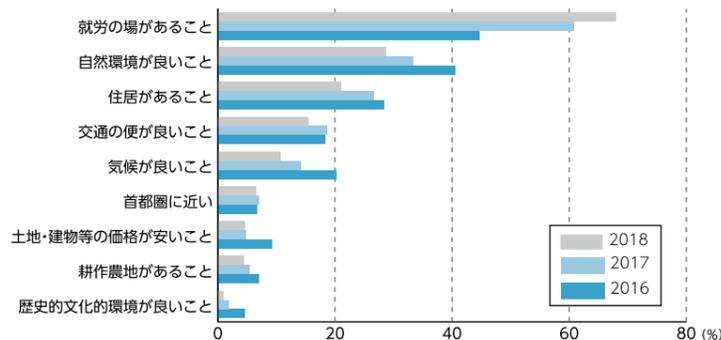
- 健康など多分野にわたって上田の「暮らしやすさ」をアピールしていくことが必要です。
- 若年層が移住を検討する上での懸念要素としていわれる就業について、必要な支援策を講じるなど、移住者を呼び込むための関連施策を全庁的に展開する必要があります。
- 市民が郷土への愛着と誇り（シビックプライド*）を持ち、「いつまでも住み続けたい」と思ってもらえるよう、内向的なシティプロモーション*を展開していく必要があります。

【移住者に「選ばれる地域」とは】

- 就労の場があること
- 自然環境が良いこと
- 住居があること
- 交通の便が良いこと

以上の4点を課題としてとらえている移住者が多い傾向にある。とりわけ、施策として対応が可能な就労と住居に関する課題解決が重要であるといえる。

【移住地選択の条件（優先順位）】



出典：認定NPO法人ふるさと回帰支援センター 2018年アンケート結果

達成度をはかる指標・目標値

指標の内容	基準値	計画目標（令和7年度）
空き家情報バンクを利用した移住・定住者の数	25人 （令和元年度）	250人 （25人/年 10年間）
空き家情報バンク成約件数	17件 （令和元年度）	120件 （12件/年 10年間）

各主体に期待される主な役割分担

市民	<ul style="list-style-type: none"> ・上田市の良さ・魅力を積極的にPRします。 ・移住・定住者の受入れ体制を整備します。
事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・上田の豊かな歴史に育まれた多彩な観光資源を活用した旅行商品や、関連商品の開発を行います。 ・移住・定住促進に向け、宅建関係事業者の受入れ体制の維持・強化に取り組みます。
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・上田市の持つ多様な魅力を向上させ、市内外にその魅力を発信します。 ・上田市への移住・定住、UIターン*支援を積極的に推進します。

施策の方向性・展開

基本施策1 「来たい・また来たい・住みたい・住み続けたい都市」の実現を目指します

- ①シティプロモーション*戦略に基づく多様な魅力の発信
 - 「上田の魅力発信・選ばれる都市づくり」の推進に向け、「上田市シティプロモーション推進指針」に基づき、市民の郷土への愛着と誇り（シビックプライド*）を醸成しながら、官民一体となったプロモーションを展開していきます。
 - 庁内に「推進本部」を設置し、「人・食・文化・産業・情報」などの様々な上田の魅力を戦略的、効果的に発信するシティプロモーションに取り組み、受け手となる人たちとの良好な関係を創造しながら地域外の人々との様々なつながりを構築することにより、関係人口*の創出・拡大を図ります。
 - 若者の多様な意見を生かす魅力的なまちづくりを進め、若者の定住を促進します。
- ②上田の「歴史と魅力」を生かしたまちづくりの推進
 - 上田が持つ多彩な観光資源を全国に情報発信することにより、国内外からの観光誘客を推進し、幅広い分野に経済効果を波及させていきます。
 - 日本遺産*のストーリーや、真田氏と上田城、蚕都の繁栄といった、上田市の特徴的な歴史や文化に関する生涯学習*の機運醸成を図ります。

基本施策2 移住に向けたシティプロモーションを推進します

- ①移住希望者への情報発信
 - 移住希望者の多様なニーズを把握した上で、大都市圏で行う移住相談会で情報を提供します。
 - 仕事、生活、教育及び健康などの上田市での暮らしに関わる情報をパンフレットやホームページ、PR映像などの媒体により発信します。
 - 空き家を提供したい人と空き家を利用したい人に対し、相互の情報を収集及び発信する「空き家情報バンク制度」を活用し、定住人口の増加と空き家解消による地域の活性化を促進します。
 - 地域コミュニティへの橋渡しなどの支援を行う先輩移住者や地元住民・団体のサポート体制を充実し、移住希望者に向け助言していきます。
 - 就農を希望する移住者に、JAなどの関係機関を通し、農地に関する情報を提供するとともに、営農技術支援を含めた相談や受入れ体制を充実します。
- ②移住へと導く関連施策の展開
 - 移住希望者を対象に、市内の住宅物件の見学や生活体験ツアーを実施します。
 - 移住・定住コーディネーターを設置し、仕事や住居の確保、子育てなど様々な課題をサポートする相談体制を充実し、移住に係る負担を軽減します。
 - クラインガルテン*など一定期間上田市に住んで生活体験をすることができる施設の活用や、プログラムを実施します。
 - 若年層や働き手世代をターゲットとして、UIターン*希望者に働く場の紹介やスキルアップ研修など就労支援策を実施します。
 - 地域おこし協力隊員*として都市地域から受け入れ、農業や観光、住民の生活支援など地域の活動に協力してもらいながら、定住・定着を推進します。



6-2-2 交流・連携促進による地域の活性化

広域的な市町村連携や姉妹都市などとの交流を促進し、地域の魅力や活力を高めます。

現状と課題

- 人口減少、少子高齢化を見据えた自治体経営として、各市町村が持つ機能や魅力を生かしあい、相乗効果を高めていく広域連携の重要性が高まっています。
- 上田地域定住自立圏の中心市として、生活圏をともにする構成市町村との連携を密接に図りながら、圏域をリードし、全体の発展を目指していく必要があります。

【上田地域定住自立圏（圏域7市町村）】



達成度をはかる指標・目標値

指標の内容	基準値	計画目標（令和7年度）
上田地域定住自立圏 取組事業数	61事業 (令和元年度)	65事業

各主体に期待される主な役割分担

市民	・観光や文化などの地域資源を生かした魅力あるまちづくりを進めるため、関係自治体をはじめ、各都市間の交流や連携を深めます。
事業者	・地域の活性化、地域経済の振興につながる取組に協力します。
行政	・地域力強化に向けた広域連携を促進します。

施策の方向性・展開

基本施策1 広域連携により地域力を強化します

- ①長野・松本・上田トライアングル都市連携の推進
 - 長野市・松本市との連携を推進し、共通課題への対応や地域活性化に向けた施策を展開します。
- ②上田地域定住自立圏及び広域行政の推進
 - 上田地域定住自立圏の構成市町村と連携を密に「第2次上田地域定住自立圏共生ビジョン」に掲げる連携事業を着実に進め、適宜見直ししながら、行政経営の効率化を図り、安心して暮らし続けられる魅力あふれる圏域を形成します。

- 上田地域広域連合の構成市町村（上田市、東御市、青木村、長和町、坂城町）とともに、循環型社会の構築、地域医療、観光振興など、広域における課題解決や地域の活性化を図ります。

③国内外の姉妹都市などとの交流

- 国内外の各都市との交流の歴史を踏まえながら、地域資源を生かす魅力あるまちづくりに向け、市民レベルのさらなる交流促進や行政間、各種団体との新たな連携策を展開します。

④新たな価値を創る広域連携・交流促進

- 地域資源を生かす関連自治体との連携強化を深め、観光や文化面での交流を促進します。
- 「スマートウェルネスシティ構想*」の実現を目指す全国の自治体と連携し、健康都市*うえだのまちづくりを進めます。
- 教育再生首長会議*を構成する全国の自治体との連携を図り、子どもたちのより良い教育環境づくりを進めます。

【国内外の姉妹都市等の一覧】

呼称	都市名	提携年月日（提携時市町村）
友好交流都市	寧波市 中華人民共和国浙江省	平成7年2月9日(旧上田市)
友好都市	ブルームフィールド市 アメリカ合衆国コロラド州	平成13年5月24日(旧丸子町)
姉妹都市	グボス町 スイス連邦グラウビュンデン州	昭和51年3月25日(旧真田町)
姉妹都市	鎌倉市 神奈川県	昭和54年11月5日(旧上田市)
姉妹都市	上越市 新潟県	昭和54年11月5日(旧上田市)
姉妹都市	豊岡市 兵庫県	昭和54年11月5日(旧上田市)
姉妹都市	九度山町 和歌山県	昭和52年5月4日(旧真田町)
友好都市	練馬区 東京都	平成6年12月1日(旧武石村)

※新市発足後、すべての都市と改めて提携調印(H18.8.18)

参考 関連する個別計画

第2次上田地域定住自立圏共生ビジョン



子どもたちの国際感覚を育む交流
「青少年派遣交流事業」(ブルームフィールド市郡)



特色ある地域資源を活用した産業交流
「産業交流に関するフレンドシップ協定」(所沢市)



名産のりんごを生かしたシティプロモーション*
「東山観光農園りんごオーナー制度」(鎌倉市)



姉妹都市の魅力学ぶ市民ツアー
「市民交流団九度山町訪問事業」(九度山町)

指標・目標値一覧（第6編）

■文化・交流・連携【文化を育み、交流と連携で風格漂う魅力あるまちづくり】

編章節	指標の内容	基準値	計画目標 (令和7年度)
6-1-1 文化遺産の継承と活用	市の歴史や文化財に愛着や誇りを感じる市民の割合	61.2% (令和元年度)	66.0%
	歴史や文化を大切にしたい上田らしさを感じる市民の割合	51.0% (令和元年度)	55.0%
6-1-2 育成を基本理念とした文化芸術活動への支援と文化創造	文化・芸術に触れ、参加する機会に恵まれていると感じる市民の割合	43.5% (令和元年度)	45.0%
6-2-1 上田の魅力発信、選ばれる都市づくり	【戦略】 空き家情報バンクを利用した移住・定住者の数	25人 (令和元年度)	250人 (25人/年 10年間)
	【戦略】 空き家情報バンク成約件数	17件 (令和元年度)	120件 (12件/年 10年間)
6-2-2 交流・連携促進による地域の活性化	【戦略】 上田地域定住自立圏 取組事業数	61事業 (令和元年度)	65事業

(注) 【戦略】は、「総合戦略*」の重要業績評価指標 (KPI) に位置付ける目標値

■第6編と関連性の高い「総合戦略」の数値目標・重要業績評価指標 (KPI)

※前掲の【戦略】を除く (p168、169参照)

総合戦略における 関連施策	指標の内容	基準値	計画目標 (令和7年度)
基本目標3： 人口の社会増を 伸ばす (※数値目標)	社会移動（転入者数－転出者数）	▲68人 (令和元年)	213人
3-② 移住相談、受入れ体制のワンストップ化促進	移住相談件数	223件 (令和元年度)	250件
4-④ 地域主体のまちづくりを進める 地域内分権推進	地域おこし協力隊員*の定着率	100% (令和元年度)	100%